

## エコ通勤チャレンジサイトに登録しよう!


新潟市では「にいがたエコ通勤チャレンジサイト」を運営しています。このサイトでユーザー登録をし、エコな通勤(徒歩、自転車、公共交通機関)についての活動報告を行うと、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量、カロリー消費量などが分かるしくみになっています。

また、活動報告を20回することで、オリジナルエコバックが当たるチャンスもあるようです。

なによりも、クルマ通勤を徒歩や自転車、公共交通機関に変えることで、カラダもココロもゆとりが持てますし、運動不足も解消できることでしょう。ご登録してみたいはいかがでしょうか?

(<http://www.niigata-ecommuters.com/>)

### 「Eco列車でいこう!」～第98回～ 「夏の思い出」

(CO<sub>2</sub>排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです!) 

「夏が来れば思い出す～」で始まる唱歌「夏の思い出」。作詞家の江間章子は昭和19年に尾瀬を訪れている。戦時中の厳しい時代の中で、どのように尾瀬へ向かったのだろうか。エネルギー不足の時代だ。馬力の弱い木炭バスで、何度もエンストしながら、乗客がバスを押しながら向かったのかもしれない。

そして到着した尾瀬。澄み渡る青い空と清涼な大湿原に心を打たれたに違いない。

江間は晩年の回顧録で、ミズバショウ咲き乱れる尾瀬の風景を「夢心地」と表現している。

その時の風景と心情を詠った「夏の思い出」はNHKの「ラジオ歌謡」の唱歌として昭和22年に発表された。

ふと、尾瀬に行きたくなり、8月4日(金)の夜、クルマに布団を積んで出発した。

国道49号線の福島県西会津町から三島町、昭和村を通過、桧枝岐村の御池駐車場についたのが午後11時。クルマの中で仮眠した。

明けて5日の朝。標高約1500メートル。天気も良く、さわやかだ。この先はマイカー規制があり、朝5時のシャトルバスに乗車する。乗客は15名くらいだろうか。およそ20分で尾瀬の入口「沼山峠」に到着した。

よく整備された登山道を歩き、わりとすぐに峠を越えた。さらに山道を30分近く進むと、突然視界が開け、思わず息を飲むほどの絶景が広がった。「大江湿原」だ。

早朝の尾瀬を歩く人はほとんどいなかった。風の音と鳥の声を聞き、木道を歩き、尾瀬を独り占めしていると、感動がこみあげてきた。「ニッコウキスゲ」「ワタスゲ」ともにすでに見頃を終えているが、花は少なくとも十分だ。「この瞬間、日本人の中で最も贅沢な時間を過ごしているのではないか。」と思った。

尾瀬沼南岸「三平下」まで歩き、燧ヶ岳を見ながら持参のおにぎりともそ汁を食べた。コンビニで買ったおにぎりも、インスタントのみそ汁も、普段の数倍もおいしい。尾瀬沼を左回りに一周し、再び大江湿原を通り、その絶景を目に焼き付け、沼山峠に戻った。

これから秋に向かう尾瀬は「草紅葉」の季節になる。沼山峠からなら、小学生でも気軽に歩くことができるので、まだ訪れたことがない方には、ぜひおすすめしたい。

なお、新潟県側から入る場合、小出ICから国道352号、奥只見シルバーライン、銀山平を経由するが、銀山平から御池駐車場までの「国道」は「酷道」と揶揄される悪路なので、注意された方が良い。

順調に行けば、新潟から約3時間で到着できるだろう。



#### 【8月4～5日】

新 潟	19:00
(西会津経由)	
御池駐車場	23:00
	5:00
沼山峠	5:20
(大江湿原)	
(尾瀬沼一周)	
沼山峠	11:30
御池駐車場	11:50
(奥只見経由)	
新 潟	16:00